

市立

1995年（平成7年）4月1日発行

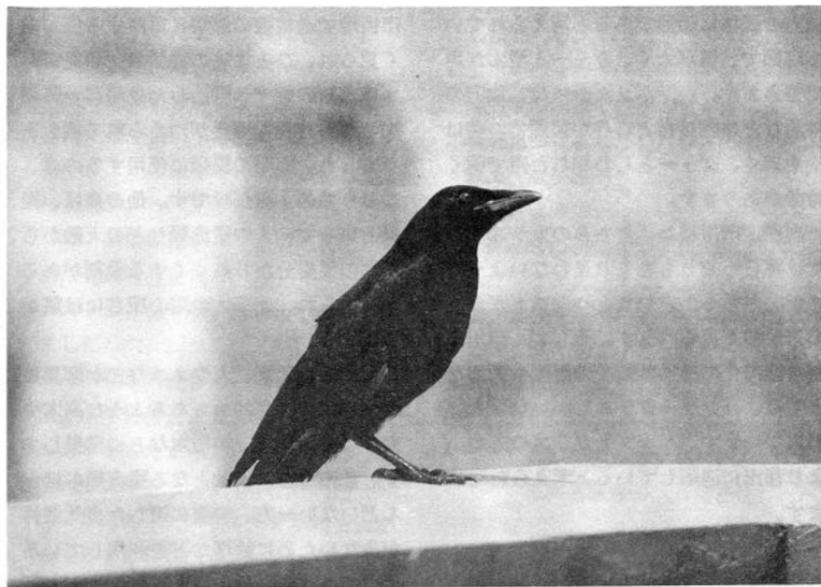
市川自然博物館

4・5月号 だより

(通巻第37号)

都市と
生物

I 『カラス』



▲マンションの屋上で休む巣立ち直後のハシボソガラスの幼鳥

都市は、私たち人間が機能と効率を優先して、人工的に作り上げた空間です。都市化によって多くの自然環境が失われたため、安心して生きていけるすみかや、食べ物となる動植物を十分に得ることができず、数多くの生物が都市から姿を消しました。一方で、都市で生活し、その勢力を拡げている生物もいます。特集「都市と生物」シリーズでは、都市とそこで生きる生物との関わりについて紹介していきます。

第1回は、都市で最近増加しているといわれるカラスについてです。

都市にくらすカラスは2種類

都市で普通に見られるカラスには、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種類があります。ハシブトガラスは、もともと南方の森林に起源があると考えられている種類で、嘴が太く、カーと澄んだ声で鳴きます。ハシボソガラスは、北方の草原などの開けたところが起源で、嘴はやや細く、グァーとしわがれた声で鳴く特徴があります。

現在、市川には、どちらのカラスもいて、暮らしぶりもあまり変わらないようですが、どちらかというとハシブトガラスの方が多く見られます。そして、市川よりも都市化の進んだ都心の銀座や新宿などでは、ハシブトガラスしかいないといわれています。ハシブトガラスの方が、より都市に適應していると考えられています。

鉄塔に営巣

カラスは、2月下旬から繁殖期に入ります。都市のカラスはどんな所で子育てするのでしょうか。都心や市街地で、カ

ラスの営巣場所をさがしてみると、面白いことに送電線の鉄塔やビル屋上の広告塔、野球場の照明塔などの人工物の高所に数多くみつかります。市川市内では、市街地で送電線の鉄塔に営巣する例が多く見られ、ひと番いの縄張り（半径500mほど）の中で、隣接した鉄塔に一時期に2個も3個もの巣がつくられる例もありました。実際の繁殖に使用するのは、このうちの1個だけです。他の巣は、擬巣といって、人や猛禽類などの天敵から、本物の巣を分かりにくくする役割があると考えられ、カラスの用心深さには驚かされます。

カラスは元来、人やネコなどが容易に近づけない樹高20mもあるような高木や、大きな緑地に程近い樹木などに営巣します。都市では、天敵となる猛禽類もほとんどいない一方、営巣に適した自然条件が少ないために鉄塔などを利用しているのでしょうか。理由はどうであれ、人間の作りだした都市施設に営巣する大胆で柔軟な適応力を持っていることだけは確かなようです。

鉄筋づくりの頑丈な巢

自然博物館では都市の鉄塔などに営巢したカラスの巣を数多く展示・収蔵していますが、それらには、木の枝とともに針金や針金製のハンガー、合成樹脂の紐やテープなどの人工物が巣材としてたくさん使われています。市川市南八幡の送電線鉄塔につくられた巣は、20本もの針金ハンガーが積み重ねられ、太い針金も巧みに巻きつけてありました。卵を産みつける産座には、枯れ草やコケなどの柔らかい材料が用いられていて、新聞や雑誌などの切れ端やポリエチレンのテープ、ガラス繊維の断熱材なども多量に入っていました。

こうした材料は、主にゴミとして捨てられたものをカラスが収集してきたものようです。多数のハンガーは、捨てられたもの以外に、マンションの物干し場や、ベランダにぶら下げられているものを失敬するらしく、洗濯ばさみがくっついたハンガーも巣材になっていました。

なぜ、針金やハンガーを多量に利用するのかははっきりしませんが、いくつかの

利点が考えられます。

都市のカラスが好んで営巢する送電線の鉄塔では、葉が繁る高木に比べて巣が強い風を直接受けるため、巣材が飛ばされたり、バラバラに壊れないような頑丈な巣が必要になります。針金ハンガーは三角形に太い針金が組まれていて大変頑強です。これを、針金を利用してうまくからめると、巣は滅多なことでは壊れません。鉄塔には木の枝が多い巣もつくられますが、ハンガーを多数使った巣に比べて、枝が折れたりゆるんだりして、壊れやすいようです。

また、ハンガーや針金を利用した巣はとても重く、木の枝で作られた巣が2kg前後であるのに対して、針金入りのものは5kgほどもあります。重い巣は、強風でも飛ばされにくいと考えられます。

鉄塔に営巢するカラスがこうした利点を理解して、頑丈で重い巣を作るためにわざわざ針金やハンガーを収集しているとすれば、その知恵と行動の柔軟性に感心するばかりです。

田園地帯のカラス



都会のカラス



豊かな食生活

カラスは雑食性で、植物質でも動物質でも、食べることができるものはなんでも食べます。都心の銀座では、飲食店街の残飯に早朝 200羽ものカラスが集まることが確認されています。都市のカラスにとっては、人間が出した残飯や生ゴミなどの餌が重要な食物なのです。残飯の種類や量、ゴミ処理の方法などでカラスのそれらに対する依存度は変化しますが、自然界で餌を探すより、都会で毎日多量に出されるゴミを利用するほうが、カラスの食生活は安定し、繁栄に繋がっているようです。

動物の死体もカラスにとっては御馳走です。車に轢かれたイヌやネコの死体は、たちどころに見つけて食べてしまいます。カラスは、ゴミや動物の死体を食べることで、生態系の中の分解者の役割を果たしていることになります。

子育ての時期になると、さらに多くの餌が必要になり、カラスも大変です。残飯やたまに出会う動物の死体だけでは、子育てを安心してできません。カラスの子育ての時期は、ちょうどヒヨドリやキジバト、スズメ、ツバメ、ドバトといった都市に暮らす他の鳥たちの子育てや巣立ちの時期です。親カラスは縄張り内を毎日パトロールし、スズメやヒヨドリの卵や雛を狙います。巣立ちを待ち構えていて、巣からフラフラと飛び出したスズメの幼鳥をすばやく捕まえた例も目撃されています。こうして、まるで猛禽のように他の生物を捕まえて食べるカラスは、都市では天敵もなく、生物同士の「食う

食われる」の関係の中で頂点に立っているといい良いでしょう。雑食性であるカラスは、幅広い食性を持つことで、都市生態系の中で頂点に立ち、繁栄することができていると考えられます。

人間を利用するカラス

都市はカラスにとって住みやすい場所です。残飯などの餌が豊富にあって、安定した食生活を保てます。鉄塔やビルなどの人工環境での巣作りや、針金やハンガーなどの手頃な廃物を利用することで、安全な住環境も得ることができます。最近では、人々はカラスを含めた野鳥に優しく、わざわざ餌を与えてくれることもあります。このように、カラスは人間生活にとっても密着し、上手に人間を利用して生きているといえます。市川市内にお住まいで、都市のカラスを研究された都市鳥研究会代表の唐沢孝一さんは、その著書の中でこうした都市のカラスを「同じカラスでありながら、繁華街で生ゴミをあさる時には警戒心がつよく、公園では大人をも恐れなくなってきた。安全であれば大胆にふる舞い、危険を感じれば細心の注意をおこたらない。そんなフレキシブルな適応力こそカラスの魅力であり、都会で生き抜くすべでもあろう。」と述べていらっしゃいます。たくましい都市のカラスは、豊かな消費文明を営む人間を、恐ろしい相手と言うよりは、ありがたい援助者のように思っているのではないのでしょうか。私達の生活様式が変化しない限り、カラスも繁栄を続けることでしょう。



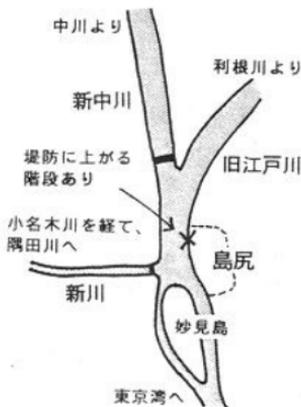
街かど自然探訪

おじゃまします!

島尻・川、川、川……

島尻で、川の堤防に上がってみます。目の前は旧江戸川です。「旧」とはいうものの、これが本来の江戸川です。右手には大きな水門があって、新中川が合流しています。新中川は昭和38年に開削された人工の水路です。左手には妙見島があり、その手前の東京側にも小さな水門があります。新川の入口です。新川は、小名木川を経て隅田川までつながっていて、江戸時代は行徳の塩を江戸に運ぶ重要な輸送路でした。

川にも、いろいろあるものです。



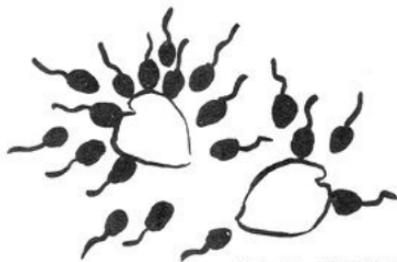
行徳野鳥観察舎

春から初夏へ

南風が吹き抜ける。雨上がりで春風特有のほこりっぽさもなく、いかにもさわやかだ。咲き残りの山桜の花びらが吹雪のように舞って、みるみるうちに葉桜に変わってしまった。

あたりは目にしみるような新緑で、いつの間にこんなにきれいに芽が伸びたのかとびっくりするほど。ノイバラやスイカズラのつぼみも目につくようになった。池ではヒキガエルのおたまじゃくしがうようよと泳ぎ、渡去の近いアオジが美しい声でさえづっている。冬じゅう毎日のおなじみだったセグロカモメたちはもうすぐ姿を消す。餌の小魚をもらいにくる

だより



絵と文・蓮尾純子

サギたちの目先（目と嘴の間の皮膚の露出部）が鮮やかな婚姻色になった。

春から初夏へ。一気に季節が変わる。

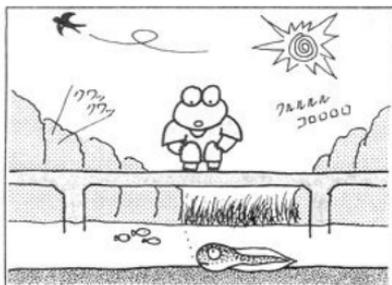
(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

ちょっと
いい所

カエルウォッチングに最適
自然観察園

自然の宝庫として知られる自然観察園は、カエル・ウォッチングの場としても最適です。ここには市内で見られるカエル8種類がすべていて、特に4～5月は、それらの存在を確認しやすい季節です。

この時期、水中にはニホンアカガエル、ヒキガエル、ウシガエルのおたまじゃくしが、無数にいます。一帯にはクルルルコロロロというシュレーゲルアオガエルの声が響き、また、時たまクワクワクワというニホンアマガエルの声も聞こえます。そして、もう1種類のトウキョウダルマガエルだけは、数が少なく、めったに見ることができません。



【自然観察園への交通】

JR本八幡駅、市川大野駅より「動植物園」行きバスで終点下車、徒歩すぐ。または、北総線・大町駅下車、徒歩すぐ。

やってみよう！
みてみよう！



アサリが
たくさん取れたら
こんなヒヨコを
みてみよう！

今日は
しおひがりの
巻



ヨシの中

みず
水たまり

まな
砂の上

いわ
岩のあいだ

みず
水の中

くい

わたしの
観察 ノート
NO. 19

春がやってきました！

◆大町自然観察園より

- ・カヤクグリを確認しました。
2/4, 5:北本六良さん (南大野在住)
- 2/24 :根本貴久さん (菅野在住)
- 3/2 :須藤 治 (自然博物館)
- ※「市川市鳥類目録1986年～1991年」
では、カヤクグリの市内での記録は
ありません。

- ・アカテハが博物館に飛来(2/23)。
宮橋美弥子 (自然博物館)
- ・ウグイスがさえずりました(3/9)。
須藤 治
- ・カワモズクが発生しました(3/15)。
金子謙一 (自然博物館)
- ・ヒキガエルの産卵の行動が始まりました
(3/18)。
阿部則雄さん (船橋市在住)

◆市川北高校付近より

- ・ノスリが、コサギを捕らえて食べてい
ました(2/4)。
北本六良さん

◆柏井小学校付近より

- ・ヒバリがさえずっていました(2/18)。

◆南大野より

- ・春一番ののってユリカモメが川を上
がってきました(3/17)。

以上 高畑道由さん (南大野在住)

◆堀之内貝塚公園より

- ・イヌノフグリ・オオイヌノフグリが、
ともに咲き始めました(3/8)。
- ・キタテハが飛んでいました(3/8)。
金子謙一

◆じゅん菜池公園より

- ・ウソの声を聞きました(3/19)。
根本貴久さん

◆里見公園付近より

- ・斜面林でウグイスカグラが咲いていま
した(3/14)。

◆坂川河口より

- ・河川敷の水路でニホンアカガエルの卵
塊を見つけました(3/14)。
以上 金子謙一

◆国府台より

- ・ウグイスの初鳴きです(3/12)。
秋元久枝さん (国府台在住)

◆国分より

- ・ヒバリがさえずっていました(2/28)。
手塚 茜さん (国分在住)

◆八幡より

- ・ウグイスの初鳴きです(3/7)。
城和善蔵さん (八幡在住)



🌱 5・6月の行事案内 🌱

🌿 自然観察会

- ・一般向けコース……身近な自然をわかりやすく解説します。申込み先着20名。
- ・親子向けコース……親子で楽しく身近な自然に親しみます。申込み先着10組。
(幼児連の方もどうぞ)

テーマ	月 日	コース名	時 間	場 所	受付開始日
谷津の 動植物	5月13日(土)	親子コース	PM 1:00 ~ 3:00	自然 観察園	4月15日~
	5月14日(日)	一般コース	AM 9:30 ~ 11:30		
海辺の 生物	6月10日(土)	親子コース	AM 9:30 ~ 11:30	江戸川 放水路	5月15日~
	6月11日(日)	一般コース	AM 9:30 ~ 11:30		

- 申込み方法・・・往復ハガキに参加したい行事名・コース名・参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、自然博物館までお申込みください。

🌿 身のまわりの 季節の情報を

お知らせください！

7ページ掲載の『私の観察ノート』は皆さんから寄せられた情報でつくるページです。「珍しい」「貴重な」情報ばかりでなく、日々の観察のなかで見つけた季節感あふれる情報や、とにかく感動したということなどもお待ちしております。

- それぞれの情報には最低限、次の3つの事柄を書いてください。
 - ・観察した月日（できれば朝昼夕方などの時間も記入してください）
 - ・観察場所（わかるならば○丁目○番地・○丁目の○○公園などまで）
 - ・観察者の氏名、住所、電話番号

○連絡方法

情報を書いた紙を封書に入れるか、直接ハガキに書いてお送りください。

○連絡先

自然博物館まで

市上市川自然博物館だより
第7巻 2号 (通巻第37号)
発行日/平成7年4月1日(偶数月発行)
編集・発行/ 市上市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473(39)0477

